

竹島問題に関する調査・研究等に功績のあった 功労者に対する感謝状贈呈者一覧

※敬称略・五十音順（複数の場合は代表者）

区分	氏名（年齢）	功 績
資料 提供	なかにし よしゆき 中西 良幸 (53) (松江市)	<ul style="list-style-type: none"> ・中西良幸氏は、数多くの竹島関連資料を遺した奥原碧雲氏のひ孫にあたり、このたびその関連資料の調査にご協力をいただくとともに、貴重な資料の提供をいただいた。 ・奥原碧雲氏が残した調査資料の多くは、竹島が島根県に編入された直後のものであるが、このうち「碧雲切抜帖」については「松陽新報」の竹島関連記事をスクラップしたものであり、質量とも充実し、新たな研究資料として資料価値が高い。
研究 協力	まつもと まさる 松本 優 (88) (松江市)	<ul style="list-style-type: none"> ・松本優氏は、戦後、通信士として漁船に乗船して漁を行っていたことから、李承晩ラインが引かれた後の漁業や、拿捕・抑留の状況について、その経験に基づいた貴重な証言をいただいた。 ・また、明治時代の竹島漁労従事者調査を行う際に、島根県公文書センター所蔵文書に記載のある「明治 37 年石橋松太郎組」の漁労従事者の一人である「松本文十」の足跡について調べるため、そのゆかりのある地区の様子について証言をいただいた。
研究 協力	あべ まさこ 安部 雅子 (83) (松江市)	<ul style="list-style-type: none"> ・安部雅子氏は、竹島の日本領土編入願いを出し、竹島でのアシカ漁撈の先駆者となった中井養三郎氏の孫にあたり、中井家が行っていた竹島での漁撈に関する資料の調査等に、協力をいただいた。 ・これまでの調査により、中井家の関係者が戦後の早い時期から、竹島でのアシカ漁業の再開を目指して運動していた事実が知られていたが、氏の証言により、戦前から戦後にかけての中井家の生活状況や様子、関係性等が判明し、それにより新たな事実等も明らかとなった。
啓発	まつだ かずひさ 松田 和久 (79) (隠岐の島町)	<ul style="list-style-type: none"> ・元隠岐の島町長である松田和久氏は、平成 16 年に町長に就任してから 10 年以上にわたり、竹島領土権確立隠岐期成同盟会会長としても、竹島の領土権の確立及び竹島周辺海域での漁業秩序の早期確立に向け尽力された。 ・東京での竹島に関する要望活動においては、関係省庁に対し、国境離島における竹島問題及び隠岐近海における漁業の実態を訴えられた。 ・平成 24 年に開催された「竹島問題の早期解決を求める東京集会」では、地元の代表として、現状を訴えられた。

* 年齢は 2024 年 2 月 22 日現在

【参考】これまでの感謝状贈呈件数

(件)

	特別表彰	資料提供	研究協力	証言	翻訳	啓発	計
H19. 2. 22	0	5	3	0	0	0	8
H20. 2. 22	0	4	0	4	0	0	8
H21. 2. 22	0	4	0	2	0	0	6
H22. 2. 22	0	1	0	1	0	0	2
H23. 2. 22	0	2	0	2	1	0	5
H24. 2. 22	0	3	0	0	0	0	3
H25. 2. 22	1	2	0	2	0	0	5
H26. 2. 22	0	3	0	2	0	0	5
H27. 2. 22	0	4	0	1	0	0	5
H28. 2. 22	0	1	2	0	0	0	3
H29. 2. 22	0	2	0	1	0	0	3
H30. 2. 22	0	2	0	1	0	0	3
H31. 2. 22	0	2	1	0	0	0	3
R2. 2. 22	0	2	0	2	0	1	5
R3. 2. 22	0	0	1	5	0	0	6
R4. 2. 22	0	1	2	2	0	0	5
R5. 2. 22	0	0	2	1	0	1	4
(今回)	0	1	2	0	0	1	4